

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 廣瀬 友昭

論 文 題 目

Surgical and Radiological Studies on the Length of  
the Hepatic Ducts

(左右肝管の長さの外科的、放射線学的検討)

論文審査担当者

主 査

委員

名古屋大学教授

後藤 秀実 


名古屋大学教授

委員

小寺 泰弘 

名古屋大学教授

委員

長 純恒二 

名古屋大学教授

指導教授

柳野 正人 

## 論文審査の結果の要旨

今回、“左肝管は右肝管よりも長い”という解剖学的考察について、外科的、放射線学的にその妥当性について検証した。外科的研究、放射線学的研究のいずれにおいても、切除された肝管の長さについて、右葉切除と左葉切除では同等であり、右葉切除は左三区域切除よりも有意に短く、右三区域切除が最も長かった。旧来からの解剖学的考察は、科学的な妥当性を欠いており、外科医の偏見であると考えられ、この認識に基づく術式決定は再考されるべきである。

本研究に対して、以下の点を議論した。

1. 全肝機能検査として、ICG 検査を行い、K 値を算出し、残肝：全肝の容積比を CT 画像を用いて計算し、残肝 K 値を算出して、残肝機能の予測評価値としている。
2. 総肝管の背側を右肝動脈が走行していることが多く、そこで浸潤されていれば、左三区域切除の場合、肝動脈の合併切除再建が必要となり、手術が複雑になるため、定型手術として同時に右肝動脈を合併切除できる右葉切除を選択することも多い。
3. 今回の検討では肝管の切除できる長さについて限定して評価を行っているが、実際は胆管の合流形態、脈管浸潤の有無、動脈や門脈などの走行形態なども術式決定において非常に重要であり、典型的な分類に分けて評価をすることは難しい。
4. 本研究では、3 次元で肝管の切離線を決定し、その部位の肝管の中心となる点と左右肝管合流部となる点の直線距離を計測した。実際には胆管が曲線を描いているため、その曲線を計測する方法も考えられたが、肝管は部位による拡張の差が大きく、細かく屈曲しており、その中心となる中心線を描くことは非常に困難であり、また中心線を同定しても、その中心線が蛇行してしまい、実際よりも明らかに長い距離として計算されてしまったため、本研究の方法を採用した。

本研究は、肝門部胆管癌の手術方法を立案する上で、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏 名	廣瀬 友昭
試験担当者	主 査	後藤 秀実	小寺 泰弘	長 紀 仁
	指導教授	柳野 正人		

## (試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 拡大手術決定の際の残肝機能の評価について
2. 右葉切除の症例数が最も多いことについて
3. 個人差も包括する定型化した分類評価について
4. 放射線学的検討における肝管距離の計測方法について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、腫瘍外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。